

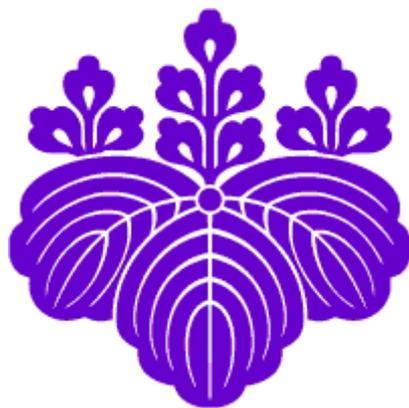
作文集

総合日本語 7 読む書く



平成 29(2017)年度 秋学期

筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター



作文集を作ろう！

☆筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）ホームページ
日本語教育部門>日本語コース>学習の成果 Students' work
<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/page/dir000804.html>
に作文を載せる

☆A4 サイズ

☆PDF ファイル

☆実名またはペンネームを書く

☆選んだ作文課題を書く

作文1 __相手の立場から論述する『ダニエル先生ヤマガタ体験記』

作文2 __複数の立場から論述する『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』

作文3 __登場人物の立場から論述する『ぼくらの七日間戦争』



<手順>

- ① クラスメイトに読んでもらう
- ② 評価シートでチェック
- ③ 載せたい作文を選ぶ
- ④ 作文を修正する

<宿題>

レイアウトを工夫して、**word** で作成

Manaba に提出

締め切り： 1月28日（日）

→提出後

- ・先生が確認してから PDF にする
- ・CEGLOC ホームページに載せる

作文1 読み手を意識して論述する

張一涵 (チョウイッカン)

『ダニエル先生ヤマガタ体験記』という本は、山形県で英語の先生をすることになった、アメリカ人のダニエル・カールが山形での様々な体験を書いたものである。本稿では第二章「山形弁の達人を目指して」を取り上げる。



ダニエルは山形県に来た後、初めて職場となる県庁の指導課に挨拶に来たときも、電車に乗ったときも何度も言葉の壁にぶつかった。ショックを受けたダニエルは山形弁を勉強し始めた。山形弁というのは山形県内あちこちの方言からなっているものだ。その中に村山弁や米沢弁などがあるという。ダニエルは毎日山形弁にあふれる職場で働いているので、山形弁を勉強するのも当然の事であろう。

県庁は県内のあちこちから人材を呼び寄せているから方言の宝庫と言えるほどだった。そこはダニエルが山形弁を勉強する一つの場所だった。英語教師として毎日山形県の中学校や高校に出かけ、授業が終わって電車を待つ間に校長先生や教頭先生とお茶を飲みながら話をするのも山形弁を勉強するいい機会となった。

私が面白いと思ったエピソードはダニエルが始めて県庁に来た時の話だ。指導課の同僚たちはみんな電話で話しているときは、「ンダ」というそうだ。山形弁がわからなくて何か聞き逃していると思ったダニエルは、一度実験をしてみた。「ンダ」ではなく、「生んだ」と推測して、「ンダ」と言っている先生に聞いてみると、「何言ってるんですか」と奇妙な顔で聞き返され、ダニエルは恥ずかしくなった。意味がわからなくて我慢できないダニエルは他の先生に聞いて、やっとわかった。結局、「ンダ」というのはあいづちみたいなので、人の話を聞くときに「ンダンダ (うんうん)」とうなずく。「ダ」のほうは「です」や「ですか」という意味だ。つまり「ンダ」というのは「そうですか」「そうだ」という意味を表す。なぜこのエピソードが面白いと思ったかという、ダニエルに同感したからだ。同じく日本語を勉強する私も、日本で周りの日本人がしゃべる日本語がわからなかった時がある。その時に私も、ダニエルのように、自分でその話の意味を推測してみたが、聞いてみると結局違う意味になる事が多い。しかし、それも日本語を勉強する方法だと思う。そうすれば、恥をかいても、深く印象に残るわけだから、もう一度その話を聞いてもきくとわかると考える。

ダニエルが山形弁を勉強するのは非常に面白いと思う。日本語の標準語だけを勉強するのではなく、地元の方言を勉強するのも有意義なことだと思う。それが日本でこそ体験できるもので、方言を勉強するとともに、現地の人と交流するのも実に大切なことだ。

引用文献:ダニエル・カール(2000)『ダニエル先生ヤマガタ体験記』集英社(集英社文庫)
イラスト:<http://www.amazon.jp/ダニエル先生ヤマガタ体験記-集英社文庫-ダニエル-カール/dp/4087472566>



総合日本語 7 読む書く

名前：DOAN BAO TRAN

作文1 読み手を意識して論述する

どんな言語を勉強しても、標準語はもちろん、その言語の様々な問題が分かることが必要だと思う。日本語といえば、方言だ。方言が分からないと、相手に話が通じない可能性がある。『ダニエル先生ヤマガタ体験記』という本を読んだら、それがよく分かると思う。この本は山形で英語の先生をすることになった、アメリカ人のダニエル・カールが山形で様々な体験を書いたものである。本稿では第二章「山形弁の達人を目指して」を取り上げる。

山形弁とは難しそうな方言で、標準語と遠く離れた言葉と話し方がたくさんあるようだ。ダニエルは山形県内の中学校や高校に毎日英語を教えるという仕事をしている。この仕事のおかげで、同僚や校長先生などの山形県で住んでいる人の話を聴くチャンスがあり、自分の興味があることはなんなのかよく分かるようになった。一番は方言に関する問題だった。どんな困難があっても、ダニエルはよく頑張った。分からない言葉を見ると、職場の先生に聞き、ノートに書きつづる。聞き取りを長く続けて行くと面白いことがわかってくる。ダニエルの職場内では山形市内の出身の人ばかりではなく、県内のたくさん地域から来た人もいる。そのため、山形市以外で使われる言葉も身につけられた。それに、同じ言葉でも、地方によって意味が違うことも分かるようになった。具体的な例としては、「アッカア」という言葉だ。「アッカア」は尾花沢あたりでは「お母さん」という意味だが、小国町で「赤ちゃん」という意味なのだ。また、このエッセイでは職場で起こった事について書いただけではなく、ダニエルさん夫婦の生活での方言の問題も語った。奥さんは標準語、英語と米沢弁と言葉のスイッチを切り替えるのがうまくできるから、日常の会話は問題がないが、夫婦喧嘩や、怒った時は米沢弁が登場するという体験などについて書いていた。

本の中で面白いと思ったエピソードといえば、ダニエルの奥さんのお母さんとの話の部分だ。奥さんはダニエルの話し方や言葉の理解力を分かっているから、分かりやすく話しかけてくれるという配慮があるが、彼女のお母さんは方言だけで話しかけてくる。そのため、言葉の意味を間違ったことで、笑わせる時もあった。例えば、食事している時は、お母さんが「ダニエル、マツカネカ」と早口で言って、ダニエルが「余った金がないか」だと思ったから、1万円を差し出したという話があった。その話を読むと、言語問題についての本を読んでも、読者は退屈な感じが全然しないだろう。また、言語の問題について、やはり外国人同士で結婚した夫婦は同感するはずだ。

わかりやすい日本語が使われているこの本は外国人にも楽に読めると思う。ダニエルの語り方も面白く、どんな問題でも詳しく説明している。そして、ダニエルの体験から、方言、特に山形弁に関する様々な問題が私にとって勉強になった。また、ダニエルが頑張ったことから、自分のやる気を高めることができた。日本語が上手になりたければ、自分が積極的に調べないとならないということが分かる。本からの勉強はもちろんだが、それだけでは足りない。また、周囲の人からの勉強も外国語の学習者に対して、大切だ。

この世の中で、知識は無制限のものである。日常の生活で見たり、聞いたりすることから、自分の知識になるかどうか、それはそれぞれの人の努力次第だ。ダニエルは自分の分からないことを調べて納得することだけではなく、自分の体験から、他の多くの人の学習意欲を高めることにも成功したと思う。山形弁はどんな方言か、ダニエルがどうやってこの地方の言葉が分かるようになったのかが知りたければ、「ダニエル先生ヤマガタ体験記」という本を読んでもらいたい。

引用文献

ダニエル・カール (2000) 「ダニエル先生ヤマガタ体験記」集英社 (集英社文庫)

作文「読み手を意識して論述する」 『ダニエル先生ヤマガタ体験記』

タイ・アイン・ファット

『ダニエル先生ヤマガタ体験記』という本は日本の山形県で英語の先生をすることになったアメリカ出身のダニエル・カールが自分自身の表現で、山形弁の体験を通して書いた本である。本稿では第二章「山形弁の達人を目指して」を取り上げる。

『ダニエル先生ヤマガタ体験記』の第二章は山形弁が中心になっている。周知のとおり、広い山形県には山形弁ばかりでなく、村山弁、置賜弁、上山弁など色々なバリエーションがある。山形県に来たばかりのダニエルが色々な場面で山形弁とぶつかって、自分が勉強した日本語の標準語との違いにショックを受けた体験が書かれている。方言は日本人にとって大変であるから、外国人のダニエルも例外ではないだろう。しかし、山形弁の達人を目指すダニエルは言語の方言の壁を乗り越えるために、知らない言葉などにぶつかると、すぐにメモを取ったり、自分が勤めている県庁の指導課での同僚、先生などに聞いたりすることで、その言語の見えない壁をやっと壊してきたのだ。

私にとって最も面白かった部分は山形弁では言葉の直後に「ス」をつけることだ。例

えば、普通は挨拶の時には「おはよう」

「こんにちは」と言うだろう。しかし、

山形弁では「ス」をつけて、「おはようっ

ス」「こんにちはっス」になってしまふ。



「ス」をつけると、丁寧になると考えられている。したがって、ある時には県知事がダニエルの職場に立ち寄った時、ダニエルの同僚の横尾先生は延々と「ス」をつけて、「ドモススススススス」と言ってしまった。それはダニエルばかりでなく、読者の私も爆笑してしまった。さらに、日本で一番偉い人の天皇陛下が来たら、その場面はどのようなになってしまうか、見てみたいと思った。もしかすると何十個も「ス」をつけるのではないだろうか。

私は、いつかダニエルのように日本がうまく話せるようになるかどうか分からない。しかし、これは短いエッセイなのに、ダニエルの山形弁に対する情熱、努力などがしっかり見えた。実はどんな言語を学んでも、成功する最も基本的なことはその言語に対する情熱である。山形県に住んでいるダニエルが山形弁の達人になったように、自分がほかの人よりも精一杯の努力をしないといけない。そのため、日本語学習者の私たちは日本語の達人になるために、うまく話せるようにほかの人よりも、頑張らなければならぬ。

このエッセイは外国人から見た日本語、方言についての本なので、読みやすく、面白い。ぜひ読んでください。

引用文献

ダニエル・カール(2000)『ダニエル先生ヤマガタ体験記』集英社(集英社文庫)

イラスト

<https://images-na.ssl-images->

[amazon.com/images/I/51GYNCXJQAL._SX322_B01_204_203_200_.jpg](https://images-na.ssl-images-amazon.com/images/I/51GYNCXJQAL._SX322_B01_204_203_200_.jpg)

作文2 複数の立場から論述する

名前：えんちく

金水（2003）によると、役割語とは人間を特別な標準で分類し、そのカテゴリーに属する人間が共通して持つ言語上の特徴、つまり「言語上のステレオタイプ」のことである。ステレオタイプは元々、日常生活を効率よく暮らしていくために、既定のモデルや流れに基づき、仕組みを形成した結果だが、ただ見た目や表面的な特質といった基準で、対象のカテゴリーを判断すれば、とたんに様々問題が出てきてしまう。

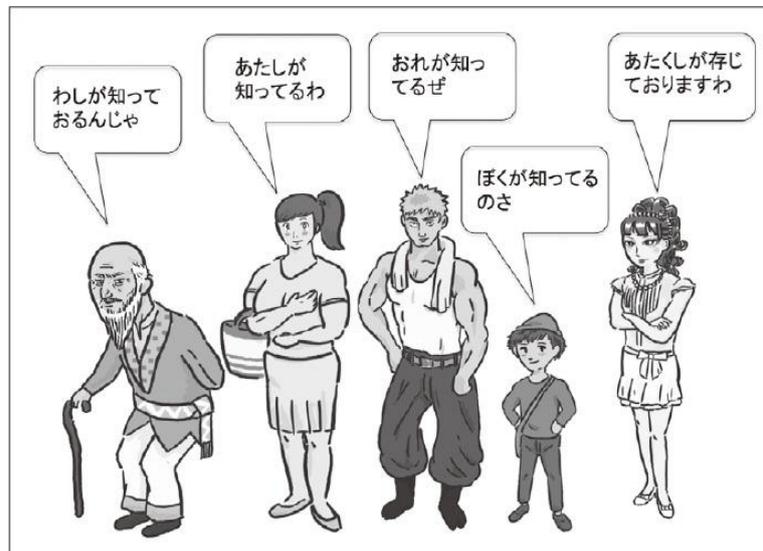


図1

日本人の立場から見ると、役割語はステレオタイプと一定の感情と結びつけるものだと考えられる。役割語が溢れる読み物や番組に絶えず接している日本人は、いつのまにか言語を含めた偏見を形成してしまう。また、日本語の役割語は現実に使われる会話と言葉を忠実に反映できないだけでなく、特定のキャラクターの登場を強調する時に用いられる。依田恵美の『役割語としての片言日本語—西洋人キャラクターを中心に—』では、外国人キャラクター（特に西洋人キャラクター）の片言の特徴として、いくつかの例が挙げられている。例えば、「モーラの挿入、および消失」というのは、日本語にないはずの拍を挿入したり、逆にあるべき拍を消去したりすることであり、その中でも、特に長音を挿入する方法が多く見られるという（例一）。

（例一）「大丈夫でーす。いくみさんはジャパニーズ・マフィアになる必要はないでーす。」

また、「母語の出現」とは、日本語での発言中に、母語を混在させることである。ここで混

在される母語は、主に感動詞や挨拶表現、その他日本でよく知られた簡単な言葉である。例二では、「小さい」などという簡単な語をわざわざ英語で言っている。

(例二)「あたしがスモールは日本の血のせいのだ。」

外国人の立場から見ると、役割語は偏見とは結びつかない言葉だと考えられる。特別な説明がなければ、役割語に隠れている偏見になかなか気づけない。なぜなら、日本語を母語として使って暮らしていないことはもちろん、また日常生活で日本語に頻繁に接触するメディアはたいたい小説、ドラマ、映画、番組といったもので、大量の役割語が含まれたメディアに染み込んでしまうからである。そして、現実に用いられる日本語にあまり接しなかったが最後、役割語の語形を当たり前のように学んで、生活に使ってしまう。つまり、言語の使い方に小さく細やかな違いは分別できず、どんな言い方をどんな場合に用いるべきかの語感はまだ鈍いということだ。そう考えると、外国人は役割語に含まれた深層心理と文化的な意識を取らえられないということは理解できる。

日本語を学ぶ留学生の私にとって、役割語と現実の会話の区別を正しく認知するのは大切な課題であると考える。なぜなら、役割語は現実の会話でほとんど使わなくても、現実の社会と文化の様相が反映されているからである。役割語には、社会に持たれた既定の先入観に基づき、文化的ステレオタイプを形成し、さらに特定の対象にその偏見を当てはめるという現象が観察される。そのため、役割語を現実の会話に比べたら、その社会はその役割語の話し手にどんな反応や答え方を期待するかということもよく理解できるだろう。つまり、役割語を学習すると共に、その社会の文化的ステレオタイプをもっと深く認識できる。したがって、外国人の学生たちに役割語の認識を深く教えるために、小説やドラマの教材を使うだけでなく、日本人に会話とやりとりを教材として使用するべきだと考える。



引用文献

金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

依田恵美 (2011) 「役割語としての片言日本語 —西洋人キャラクタを中心に—」『役割語研究の展開』くろしお出版

<https://blog.skritter.com/2016/05/yakuwarigo/> (図1)

小説を読んだり、アニメを見たりする時、現実では使っていないが、どんな人物かわかりやすくするために使われた表現が出てくることがよく見られる。これは現実の会話のままではなく、決まったセリフを書き、キャラクターの性格をちゃんと説明しなくても読み手がすぐわかることができるように使うのである。「このような表現を役割語という。役割語とは、言語上のステレオタイプである。(金水、2003) 本稿では複数の立場に立って、小説やアニメなどの作品で役割語が使われることについて意見とその根拠を述べる。

まず、日本人の立場から見ると、役割語は小説を読んだりアニメを見たりするとき、内容がすぐわかるために役に立つものだと考えられる。なぜなら、日本人はあるカテゴリーに属する人間が共通して持つ特徴が頭の中に入っていて、役割語を使ったら複雑な説明がなくても簡単に内容の把握ができるからである。例えば、小説では人の見た目などを文にして説明すべきだが、役割語の特定のイメージがわかる日本人は役割語を見てすぐその状況を判断できるようになるなどの場合がある。

しかし、女性の立場から見ると、役割語は女性に対する偏見を強化する可能性があると考えられる。なぜなら、いわゆる女性語を使う女性は「女らしい」「言葉を使うのだ」と思い込まれてしまう場合があるからだ。韓国では今ジェンダー問題が非常に話題になっている。様々な事件のため、性差別についての女子の怒りが爆発し、「女らしい」と言われているものなら一々指摘されてしまう状況である。ただし韓国だけではなく、世界中に性差別を取り除いていこうという流れがある。そういうわけで、役割語を使うのはこのような流れに逆行することであり、使用を阻止すべきことだと考えられる。

小説やアニメなどの作品で役割語が使われることはやはり読み手の理解に役に立つ装置である。しかし、無分別に使ってしまうと、良くないステレオタイプを強化させる恐れがあると考えられる。そのため、役割語を使うときは、その役割語がどのような影響を及ぼすのか十分に考えた上で使うべきだと考えられる。

引用文献 — 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店

作文 2 複数の立場から論述する

金水（2003）によると、役割語とは漫画や小説などで出て来る、ある特定の人物像の話し言葉である。登場人物の言葉に役割語をつけることによって、その小説を読んでいる人がどんな人が話しているかを理解できるものである。

日本語を学ぶモンゴルの初級学習者の立場から見ると、役割語は日本語の初級学習者に悪い影響を与えているものではないかと思われる。現在モンゴルでは日本語教育が広く行われていて、日本語を学ぶ人の人数が増えている。日本語を色々な方法で学んでいるが、最近の若者はアニメや漫画などを勉強として読んだり、見たりするようになってきているようだ。その作品に出てくる役割語の言葉を役割語だと分からず、その言葉遣いをそのまま使ってしまうがちである。例えば「わたし」という言葉を代わりに「おれ」や「わし」などを使ってしまう。なぜなら日本語はモンゴル語と違って、自身を表す代名詞がたくさんあるからだ。

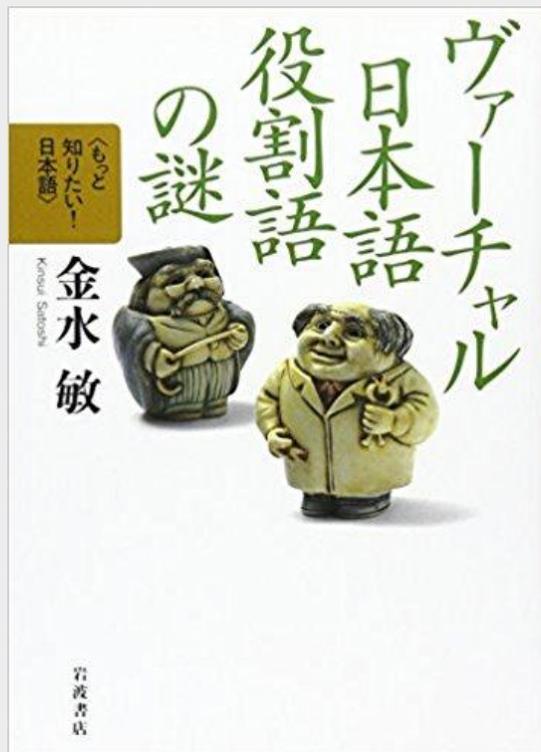
日本語を学ぶ留学生として、小説や漫画などの作品で出てくる日本語（役割語）は、現実の日常生活ではあまり使われていないと言って、無視するのはよくないと思う。日本語を学ぶ中で、役割語もあわせて学ぶ方がいいと思われる。なぜなら、役割語を学んだ上でより自然な日本語が身に付き、役割語を理解できることによって、アニメや漫画や小説などをスムーズに読めるようになると思うからだ。

上記の二つの立場はどちらの立場でも最初は日本語を学ぶ時、男と女をかかわらずに「わたし」という単語が使われると先生に教えられたと思うが、どんどん日本語能力が上達し、それにつれて男の場合「僕」「俺」を分けて正しく使うようになるはずだと思う。そして日本語の初級レベルを超え、日本語の役割語を理解できると、あるアニメや漫画や小説などの登場人物の話を見聞きするだけで、どんな人物像が話しているかを自然に理解できるようになると思われる。

引用文献

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

作文2 複数からの立場からの論述する



金水（2003）によると、小説を書く際に、現実の会話を録音して、テープ起こしたままのような台詞が書けるものではなく、決まった台詞や型通りで書くものだという。要するに、「小説用に再構成された虚構の言葉」である（清水義範『日本語必笑講座』）。例えば、「わし、じゃよ、じゃ」等である。それらは役割語という。役割語を使うことにより、作品が分かりやすくなる。それで、マンガ、アニメ、小説でよく使われている。

日本人の立場からみると、役割語は易しくて理解しやすいと考えられる。なぜなら、生まれてからよくその言葉を聞いて、それが常識になっているからだ。主に、生活の中で読書好きな日本人はよくマンガか、小説を読んでいるはずだ。例えば、「あら、そうよ、わたくしは知っておりますわ。」という文があった際、日本人は可愛くて、ピンクの服を着ているようなお嬢様だとすぐ思い浮かべる。要するに、日本人は頭の中でどんな人物像なのか、あるいはどんな話し方なのかが、文を読み次第想像できるのではないかと考えられる。

マンガ、小説が好きな人の立場からみると、役割語はとてもおもしろくて、一段と読んでいるマンガや小説を楽しめ、その上、読んでいるうちにその登場人物の音声まで聞こえることもあるものだと考えられる。なぜなら、書かれた文を読んだ上でその登場人物が誰か、すぐイメージがわくからだ。例えば、子供の台詞を読んで、子供のイメージがわく。それは、マンガ、小説が好きな人に対しては最も楽しめるものではないかと考えられる。やはり、色んなストーリーに色んな登場人物がいるので、書かれた文を読んで、読者の頭の中の音声にも影響するのではないかと考えられる。

日本語を学ぶ留学生として、役割語は非常に難しいが、おもしろいと考えている。なぜなら、書かれた文を読み次第、その登場人物は誰なのかすぐイメージに付けることができるからだ。もちろん日本のアニメをはじめ、マンガ、小説をきっかけで日本語を学び始める人が少なくないだろう。あるいは、日本語を学んでいる日本語学習者は自分の日本語能力を伸ばすために、自分からマンガ、アニメ、小説を見るようにする人もいるだろう。それらに触れれば触るほど豊富な役割語が出てくるはずだ。実は私も自分の日本語能力を伸ばすために日本のアニメを見た。アニメに出ている話し方は実際に学んだ日本語と違ってあまり聞き取れなかったが、何度も見ているうちに、画像がなくても、声だけ聞こえたら、そのキャラクターを思い浮かべるようになった。日本の小説も読んだことがある。その小説はおばあさんと孫の話だが、そのおばあさんの台詞に入ると読んでいる時におばあさんの声が聞こえたことがある。その時は、集中しすぎていたかもしれないが、その役割語のおかげで読んでいた小説をたのしむことができたと思う。つまり、知っている役割語の数が多ければ多いほど、おもしろくなるのである。

引用文献：金水 敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

< 作文 2 > 複数の立場から見る日本語の役割語

日本語には役割語というものがある。金水敏によると、役割語とは小説家・清水義範が『日本語必笑講座』でのべているように「小説用に再構成された虚構の言葉」のことである。この定義から分かるように役割語とは実際の言語の場では使われていない、フィクション、つまり小説やアニメなどの創作物で使われている言葉のことである。すなわち、役割語というものは日常で使われていない、実用性がない日本語である。その観点から見ると、人によっては役割語とは必要ない日本語だとも言える。それでは、我々は実際に使っていない、小説やアニメなどでの役割語というものをどのように見るべきかについて日本人、外国人、そして日本語を学ぶ留学生の3つの立場からそれぞれ論じることにする。

まず、日本人の立場から見ると、役割語というものは国語の一つの類型であり、研究のテーマとしての価値があるものだと考えられる。また、小説やアニメなどを作る作家にとってはいちいち説明せずにキャラクターの特徴を効果的に表すことができる非常に活用性が高い日本語であると考えられる。同じく演劇をする俳優にとっても自分が演じる役のキャラクターを効果的に表すことができる日本語であると考えられる。

次に外国人（ここでは「日本語を知らない人や日本語の勉強を始めたばかりの人」）の立場から見ると、役割語は混乱を起こす可能性が高いものだと考えられる。例えば、日本語を学ぼうと思っている人が役割語を見て覚える表現が多すぎると思ったり、実際の会話の時に役割語を使ったりすることは十分あり得る。つまり、外国人にとって役割語は誤用を起こす原因であると考えられる。

最後に私のように日本語を学ぶ留学生として役割語について考えてみると、役割語は上級の日本語としての学ぶべき表現だと考える。前述したように役割語は一つの日本語の類型としての価値がある。それゆえ、役割語は日本語学を研究する留学生にとっては十分興味深いテーマだと考える。また日本の文学や演劇などに興味がある留学生も多いため、役割語はそれを理解する手助けになる表現だと考える。

これらの観点から考えて見ると、役割語というものは日本語の初心者には誤用を起こす原因になる表現だが、日本語を学び、研究をする立場からは一つの日本語の類型であり、興味深い研究テーマであることがわかる。

引用文献

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語役割語の謎（もっと知りたい！日本語）』岩波書店

小説やアニメなどの作品で役割語が使われること

桃太郎

金水（2003）によると、役割語とは「言語上のステレオタイプ」のことである。例えば、小説を書く時に脇役に言わせる台詞は、目立ちすぎないように型どおりの役割語が多用される。脇役とは、すなわち読者があまり関与する必要のない人物なので、際立った個性をつけると登場人物のバランスが崩れてしまう。そういう場合には、ステレオタイプを当てはめて決まった台詞で書くことが好ましい。

外国人の立場から見ると、小説やアニメの中で役割語が使われたとしても、それに気づけない場合が多いと考えられる。例えば、ドラマの中に登場した女性キャラの台詞で「…かしら」という言葉がよく出てきても、日本語がわからない人や日本語を勉強し始めたばかりの人にとって、現実にそういう言葉遣いをする女性はほとんどいないことを意識することが難しい。一言でいうと、それは日本語の能力がないからである。日本のドラマやアニメを見る外国人が日本語を勉強し始めたら、おのずと語尾に「かしら」をつけることも少なくない。つまり、日ごろ使う言葉と小説やアニメの中でしか使われない役割語を見分けられない外国人は、役割語のせいでめちゃくちゃな日本語を話す可能性があると考えられる。

また、中国語が母語の台湾人として、役割語という概念はとても新鮮だと考える。台湾にももちろん日本のように、キャラクターによって特定のイメージと言葉遣いがあるが、それをわざわざ抜き出して研究することがほとんどないので、「役割語」に当たる中国語はないと思う。例えば、台湾人の作家が小説の台詞を考える時にも、さすがに主役と脇役をバランス良く配置するために描写や言い方を工夫して書く。でも一見してわかるような役割語がないので、最初のページから読まないで主役と脇役を見分けにくくなる。つまり、中国語では役割語に当たる固有名詞がないゆえ、不便なところもあると考える。

私からすれば、役割語は絵のない小説で状況描写するのにより簡単に説明できる方法だと考える。日本語初心者にとって役割語はあまり役に立たないが、日本語能力が上達するにつれて、そのメリットと魅力もわかってくるはずだ。役割語は言語的なステレオタイプで人々に偏見をもたらす恐れがあるという意見もある。しかしその一方で、役割語は読者に主役と脇役の関係を一瞬でわからせる方法として便利である。つまり、役割語は諸刃の剣だと考えられる。

引用文献：金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

作文3 登場人物の立場から論述する

選んだ人物:菊地詩乃(英治の母)

詩乃は家族三人で三日間軽井沢で休みを過ごすという計画を五月に立てた。

学期最後の日に、家族三人の旅行のために家で息子を待っていた。でも11時を過ぎても、英治は姿をまったく表わさない。心配になってきた。何度も早めに家に帰るようにと言ったのに、英治が時間通りに帰らなかったことを夫に電話で話した。そのあと、慌てて自転車で学校に息子を探しに行った。学校で同じクラスの中山ひとみに会った。息子の行方を尋ねてみたが、何も有用な情報をもらえなかった。家に帰ったらすぐ英治のクラスメイトたちの家に電話をした。クラスメイトの二人の家にかけたが、帰ってきていなかった。三人目に電話をかけて、同じく帰ってこないという返事が返ってきた。詩乃は最悪の事態を考えた。誘拐の可能性もあると思った。そして、クラス全員に電話したら、二十一人の男子は谷本聡以外、全員はまだ家に帰ってきていなかった。午後二時、クラス男子の母たちは詩乃の家に集まって、これからの対策を話し合った。みんなはいろいろな可能性を考えたが、まったく手掛りがない。最終的に、もし夜まで男子たちが帰ってこなかったら警察に届けることにした。午後七時、クラスの男子の家に誰かから電話がかかってきた。ダイヤルを八八メガヘルに合わせ、七時から行うFM放送を聞けという意味不明のメッセージしか分からないまま切った。詩乃は放送を聞いたら園子の家に集まって今後の対策を検討することを提案した。

詩乃は自分の息子のことを一番分かったとは言えないが、自分の息子が無断で約束を破ることを決してしないと信じている。詩乃は他のお母さんより自分の子供を信じているから、最初から事態はただの遊びな訳ではないことに気づいた。これは詩乃は他の親より出番が多い理由だと思う。ここで母親の愛をつくづく深く感じた。一方、父親も同じく英治のことを心配していたが、母親の行動より話すだけの場面のほうが多かった。父親という存在はいつも厳しいイメージがある。文章の中で父と母、その二人の会話を



見ると、どうしてちゃんと子供は世話をしないのか、というような夫から妻への譴責を感じた。でも家庭を持ったらお金だけではなく、子供の教育も二人の責任だと思う。

また親に愛されている英治はどうしてこのような幼稚な行為が出来るか。明らかにそれは子供と大人間のコミュニケーションの問題だと思う。この年齢で物事に迷うのはよくあることだ。でも、もし悩みをちゃんと話せる相手がいなければ、大人に注目されるためにいろんな反抗の行為が出てくるかもしれない。でも私はこのようなこと決して悪いことだと思わない。これも大人と交流する手段の一種だろうと思う。このような行動はいくら少し乱暴だと言われても、コミュニケーションのあとできっと両者はもっと親しみが生まれるだろう。

引用文献

宗田理(2007)『ぼくらの七日間戦争』ポプラ社

作文 3 登場人物の立場から論述する 『ぼくらの七日間戦争』

『ぼくらの七日間戦争』では中学校のあるクラスの男子生徒全員が河川敷の廃工場にたてこもり、彼らだけの解放区を作る。それは大人たちに対して反抗し、自分たちの世界を作るためだった。その時、親たちは騒ぎ、会議などを開いて相談しあっていた。一方、解放区の生徒たちはそこに来ていない柿沼が家にいないことがわかる。のちに柿沼が誘拐されたことがわかり、このあと親と生徒たちはどうするのが書かれている。私はこの本に出てくる菊地英治とその彼女の橋口順子の立場から物語を論述する。英治はこの本に出てくる主人公だ。

英治は六月に初めに同じクラスの相原に解放区を作ろうと誘われた。夏休みになったら家族3人で軽井沢ヘテニスをしに行こうと言っていた母の顔を思い出したが、相原に見つめられて反射的についわずいて一緒に解放区を作ることになった。それでまずクラスの全員の男子生徒を相原と一緒に誘った。同じクラスの中山ひとみと堀場久美子から解放区の仲間に入れて欲しいとお願いされたが、それは断った。だが相原は解放区の外から手伝ってほしいとお願いした。そこまで考えていたことに英治は驚いた。それから解放区の準備を始めた。

いよいよ一学期最後の日に解放区に集り、解放区放送を流した。解放区放送の後に英治の彼女の橋口順子から連絡が来た。そこで解放区に来なかった柿沼が誘拐されたことを知る。柿沼と英治は柿沼の家の産婦人科の病院で同じ日に生まれたこともあり、親友である。英治は解放区に来なかった理由がわかり、心配する。電話を代わって彼女の順子と話す、英治はもっと彼女と話したかったのにすぐ電話を切ってしまった。英治は柿沼のことでどんどん不安になっていた。だが、クラスのみんなど星を眺めて話をした。

橋口順子は同じクラスの中山ひとみと堀場久美子から男子たちが解放区を作ることを聞いた。

解放区放送の後の8時半に順子は解放区にいる男子に連絡した。そこで柿沼が解放区にいないことを確かめ、みんなに柿沼が誘拐されたことを言う。そして柿沼を女子たちにまかせて欲しいと言い、また明日の8時半に連絡することを言う。最後に彼氏の英治に一言いい電話を切る。

英治と英治の彼女の順子の立場から考え、見てみると、この二人はお互い好きで、彼女は英治のこと心配していることがわかる。もちろん英治の彼女だから英治と柿沼が親友であることは分かっていたと思う。それで解放区放送のあとで連絡した時、順子は柿沼が誘拐されたことを言う。もちろん英治が心配していたことをわかっていたと思う。だから女子たちに任せて欲しいと言ったのではないかと思った。女子でどうにかできる問題ではないけれど、そうやって少しでも英治を落ち着かせたかったと思う。そして電話の最後に英治に代わってもらい、一言だけ言って電話をきったことから、英治を心配していて少しでも英治に元気になってもらいたかったのではないかと思った。英治ももっと話したかったと書いてあるように、英治にとって彼女も大事な存在だと思う。なぜこの二人の立場から考えたのかというと、二人は同じクラスの生徒であり、さらに恋人同士だから他の人よりももっと深い関係があるのではないかと思ったからだ。素直に心配していることをいえないけれどちゃんと思っていてくれるところがすごく伝わってくると思った。だからこの二人の(特に順子)の立場から考えてみた。

引用文献

宗田理(2007)『ぼくらの七日間戦争』ポプラ社

作文 3

登場人物の立場から論述する

選んだ登場人物：菊池英治

菊池英治は両親の菊池詩乃と菊池英介の一人息子である。英治は夏休みに両親と一緒に軽井沢に行く計画を立てた。しかし六月の初めころ、英治は友達の相原に彼らの解放区、つまり子供だけの世界を作ろうと誘われた。相原は解放区について英治に説明した。そして一学期が終わって夏休みが始まってすぐ解放区を作りたいと言われた。英治は両親との計画を思い出したが、結局相原に説得されて解放区を作ることに同意した。彼らは手分けしてクラスの男子生徒全員を招待した。そして予定日の一週間前、区営グラウンドに全員で集合することにした。予想外にクラスの男子生徒全員がそこに出てきた。集まった人数を見て相原も英治も驚いた。相原はリーダーの役になって食料品やせっけんなどを全員で手分けしながら準備した。彼は解放区のことを女子生徒と他の誰にも言わないように注意した。そして実行日の三日間前、英治は相原と一緒にサッカーの練習を終えて帰宅していたとき、中山ひとみと堀場久美子に男子生徒の企みについて聞かれた。彼女たちに追い詰められて相原は解放区の計画について詳しく話した。そして相原は彼女たちと橋口純子に立てこもっている男子生徒に外の様子を連絡してもらいたいと言った。

一学期の最後の日に英治は家に帰らないで男子生徒と一緒に区営グラウンドに立てこもった。そして夜の7時半に相原はFM放送で生徒たちの両親に解放区と子供だけの世界について知らせた。放送が終わってから相原が全員に「子供だけの世界を作るんだぞ！」と声を上げると英治はわくわくして胸が熱くなった。しかし英治は柿沼がまだ来ていないと気づいた。安永に彼が裏切ったかと聞かれたとき、英治は親友の柿沼をかばった。それから全員は屋上に上がって橋口純子の連絡を待った。トランシーバーで純子の連絡が来て、男子生徒は柿沼が誘拐されたことについて知った。そして1700万

円の身代金が要求されているとも聞いた。英治たちは純子に「柿沼のことは女子に任せて」と言われた。全員が柿沼のことはどうしようとする間、英治は相原に「純子が話したいそうだ」と言われてトランシーバーを渡された。彼女にただ「頑張って」と言われた。英治は柿沼のことを女子に任せることを心配した。そして身代金を渡す前に柿沼が書いた手紙を要求するという計画に賛成した。急に全員が立石剛に「空を見ろ！」と言われて、全員が仰向けになって空を見た。そして全員横になって立石剛の星座の説明を聞きながら星をずっと眺めた。

英治はとても興味深い登場人物だと思う。そして話の中に読者の私たちを代表する存在でもある。相原が積極的に解放区を作ることを説得するが、英治は冷静に物事を考える。そしてその計画の問題点を相原に言う。相原は実際の主人公だと言えるほどのリーダーシップを示すが、英治が冷静な判断を出しながら男子生徒をばらばらにせず、まとめる人物だと私は思う。

引用文献

宗田理(2007)『ぼくらの七日間戦争』ポプラ社

ぼくらの戦争、皆の戦争

総合日本語7読む書くB 張春霖

(選んだ人物：菊池英二)

それは六月のはじめのある日のこと。菊池英二はクラスメートの相原徹から、大人たちの代表した権力と戦うために子供だけのいる解放区を作ろうと誘われた。相原に、大人たちに言いたいことがたくさんあると言われて、ずっと黙っていた菊池も、大人たちと対抗してみたくなってきた。そして相原とクラス男子全員を誘ったが、意外とみんなが参加した。解放区創立の三日前、菊池は中山ひとみと堀場久美子からも参加したいと言われたが、相原は彼女たちを信じていないか、事件から守りたいか、彼女たちの要求を断った。でも、相原は彼女たちに手伝ってほしいと言った。

解放区の準備は順調に進んでいた。一学期の最後の日、夏休みの直前、菊池はクラスの男子全員と荒川工機の廃棄工場に向かった。夜七時、みんなで第一回の解放区放送を行い、親たちに自分の「革命宣言」をした。放送が終わった後、菊池は彼女の橋口順子から、柿沼直樹が誘拐されたことを聞いた。みんなで相談し、柿沼の救出作戦を計画した。そして、立石剛に呼ばれ、みんなで工場の屋上で星空を眺めながら、いろいろ話をした。

これが菊池英二らの「戦争」の始まりだ。簡単に言えば、生徒たちは大人たちの権力に不満だったから、大人たちに対抗しようとした。権力と闘争しつつ、自分たちの決意を表明し、絆を強め、自分なりの成長を得る、彼らはきੱつこういいうだろう。

しかし、それは本当に「正しい」のか？

渡航(わたりわたる)のライトノベル『俺の青春ラブコメは間違っている。』の冒頭で、
こう書いてある――

「青春とは嘘であり、悪である。
青春を謳歌せし者たちは常に自己と周囲を欺く。
自らを取り巻く環境のすべてを肯定的に捉える。
何か致命的な失敗をしても、それすら青春の証とし、思い出の1ページに刻むのだ。
(中略) 彼らはそれを「若気の至り」と呼ぶ。(中略)
彼らは青春の二文字の前ならばどんな一般的な解釈も、社会通念も捻じ曲げて見せる。彼らにかかれば嘘も秘密も、罪科も失敗さえも青春のスパイスでしかないのだ。
そして彼らはその悪に、その失敗に特別性を見出だす。(中略)
すべて彼らのご都合主義でしかない。
なら、それは欺瞞だろう。嘘も欺瞞も秘密も詐術も糾弾されるべきものだ。
彼らは悪だ。」

趣旨は当てはまらないが、その通りだろう。

確かに、大人たちの視点から見れば、菊池英二たちは何かあるとちゃんと話もせず直ちに大人たちと対立する。何も言わずに家出をし、大人たちを心配させる。自分たちの仲間が誘拐され、殺されるかもしれないが、みんなまだ星空を眺めている。そういうことは、いったいどこが青春だろう、どこが正義だろう。それはただ「青春」を名目に、わがままに自分たちの拘束から離れたいだけだ。

そう言われたら、菊池英二も相原徹も、きっと何の反論もできないだろう。

そうだ。それは正しくはない。彼らのことは、決して英雄譚なんかではない。子供が大人に対抗するなんて、ただの迷惑行為、ただ彼らのわがままだ。彼らに会えば、私はきつこう言い、彼らに諦めさせる。なぜなら、私はそのガキたちとは違う。私はすでに成長しているからだ。

しかし、なぜか知らないが、彼らのことを読み、私は少し泣きたくなる。

菊池英二たちも、きっと大人たちに勝てないと知っていただろう。きっと最終的に、自分たちの負けを認め、大人たちに妥協しなければならないと知っていただろう。きっと自分たちだけで、生きていくことさえも容易くないことだと知っていただろう。しかし、彼らはそのような考えを放っておいた。勝てないと知りながら戦う。負けるまであきらめはしない。「やらずに後悔よりやって後悔」。それこそ「若気の至り」、それこそ青春の人の負けじ魂だ。

いいえ、それだけではない。そういう精神は、きっと何者でも持っている。そういう魂は、きっと我々の心のどこかに眠っている。利益の天秤にかけ、他人のことを配慮してきた我々は、いつの間にか理性の化け物になり、自分の本音を出す機能も失った。言いたいこと、やりたいことを、全部心の奥深くに潜める。これこそは、我々大人っぽい人間の愚かなところではないか。

だから、彼らは我々と同じだと思う。彼らはただ、私たちがやりたかったがやる勇気のないことをやったのだ。

引用文献

宗田理 (2007) 『ぼくらの七日間戦争』 ポプラ社

渡航 (2011) 『やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。』 小学館

3901422 日本語総合 読む書くB 授業概要

- 【詳細】 1.0 単位 秋 ABC 木曜日 1 限
【教室】 国際講義棟 9L101
【担当】 荒井 未有 (CEGLOC 日本語部門 非常勤講師)

1. 到達目標

- ・新聞記事などを読み、構成や内容を理解して適切な要約ができる
- ・物語、エッセイなどを読んで、その内容に基づく小論文や意見文が書ける
- ・読み手を意識した分かりやすい構成の文章が書ける

2. 授業内容

- ①要約：新聞記事を読んで、要約をする
- ②読解&作文：3つの文章を読み、内容を理解する。その後、その内容を基にした作文を書く。

3. 履修条件

外国人留学生のうち特別聴講学生(学群)が受講できる。日本語の新聞記事を読める程度の読解力と、それを表現できる作文力、漢字・語彙力が必要。日本語能力試験 N1 レベルが望ましい。

4. 授業計画

	日にち	内容	
1	10月5日	オリエンテーション、レベルチェック	
2	10月12日	記事要約1	読解1 (1) エッセイ
3	10月19日	要約1 フィードバック	読解1 (2)
4	10月26日	記事要約2	作文1 読み手を意識して論述する
5	11月2日	要約2 フィードバック	読解2 (1) 新書
6	11月9日	記事要約3	読解2 (2)
7	11月16日	要約3 フィードバック	作文2 複数の立場から論述する
	11月23日	休み (勤労感謝の日)	
8	11月24日	中間テスト (要約、読解、作文)	
	11月30日	休み (推薦入試)	
9	12月7日	記事要約4	読解3 (1) 小説
10	12月14日	要約4 フィードバック	読解3 (2)
11	12月21日	記事要約5	読解3 (3)
	冬休み (12月23日～1月8日)		
	1月11日	休み (金曜日の授業)	
12	1月18日	要約5 フィードバック	作文3 登場人物の立場から論述する
13	1月25日	作文集の作成 (作文1～3から選んで、修正・清書する)	
14	2月1日	期末テスト (要約、読解、作文)	
15	2月8日	期末テストのフィードバック、作文集の発表会	

5. 教材の出版

記事要約 『中上級のにはんご』 創作集団にはんご <http://www.ssnihongo.com/>

読解1【エッセイ】 ダニエル・カール（2000）「第二章 山形弁の達人を目ざして」

『ダニエル先生ヤマガタ体験記』 集英社文庫

読解2【新書】 金水敏（2003）「二 ステレオタイプと役割語」

『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店

読解3【小説】 宗田理（2007）「一日 宣戦布告」『ぼくらの七日間戦争』 ポプラ社

6. 作文の課題

<作文1> 読解1で読んだ文章について、読み手を意識して論述する

- 本を読んでいない人でも内容がわかるように書く
- 本の面白さがわかってもらえるように説明する
- 気持ちを表すときに、感情的に書かずに客観的に書いてみる

<作文2> 読解2で読んだ文章について、複数の立場から論述する

複数の立場に立って「小説やアニメなどの作品で役割語が使われること」について意見とその根拠を書きなさい。

<作文3> 読解3で読んだ文章について、登場人物の立場から論述する

- 本を読んでいない人にもわかるように書く
- 一人の登場人物から論述する（途中で他の人の立場にならないように注意する）
- 「やりもらい」表現や、「いく/くる」、受身表現に注意して書く